

2021年(令和3年)

12月16日

木曜日

徳島新聞

発行所 徳島市中徳島町2丁目
5番地2 (〒770-8572)
徳島新聞社
電話 (088) 655-7373
© 徳島新聞社 2021

「四国のみち」 アプリでPR 魅力向上協が初会合

環境省と四国4県が整備した「四国自然歩道・四国のみち」の徳島県内24ルート(総延長320キロ)の維持管理や活用策について話し合う県の「四国のみち」

魅力向上協議会」の初会合が15日、県庁であった。専用アプリによる情報発信や、踏破する難易度別のルート紹介などを盛り込んだ基本方針を決めた。

基本方針では、魅力向上策として▽利用者同士でお薦めの景観ポイントの情報交換やスタンプラリーができるアプリの開発▽24ルートを初級、中級、上級者向けに紹介▽新たに半日程度で歩けるミニコースや、遍路道を組み込んだコースを設定▽利用の多いルートから計画的に修繕などを挙げていく。鳴門市や阿波市で安全確保のため一部ル

トの変更を検討する。

県内の四国のみちは、台風の影響や現状把握の不備から、通行止めや歩きにくい箇所、標識の破損などが相当数に上っている。

会合には学識経験者や民間団体代表、市町村職員ら21人が出席した。出席者からは「階段などを補修する際は自然にできたように見える工法を採用してもらいたい」「情報発信に当たっては希少植物の盗掘を防ぐ配慮が必要だ」といった意見が出た。(青木寛倫)

「四国の道 魅力向上協議会」が開催されました。

2021年12月16日(木)県庁で開催された「四国の道 魅力向上協議会」に、当会の理事長 谷口右也 が委員として出席をし、会長に互選されました。

事務局において策定されていた基本方針について、各委員から意見を求め、決定をしてまいりました。

なお、四国内には、長距離で周回するルートとして、この「四国の道」と、かなりの距離において重複し、世界遺産を目指す「遍路道」があります。

このため、今後の過疎化や人口減少、地方自治体の財政状況などを考えた場合、この2本のルートを、それぞれ独自に管理するのはほぼ不可能と考えられます。

このため谷口会長は、協議会においても「県庁内の担当部局が連携すること」を提案し、終了後には、四国の道の担当課である「グリーン社会推進課」と、四国遍路の世界遺産化の担当課である「文化資源活用課」のそれぞれの課に連絡をし、協議の場を設定、今後の情報の共有、連携をお願いしてまいりました。